

大國県議の質問(続き)

親身で寄り添った国保行政を

大國県議は「国保料の相談に行っても強い口調で支払いを求められる」など滞納者に親身で寄り添った相談とは言えない対応が今なお続いている」と告発し是正するよう求めました。

安食治外健康福祉部長は「今後も継続して国の法令の主旨を伝えていく必要があると考えている」と答えました。

大國氏は、厚労省の通知では「資格証明書」を交付する際は、機械的・

安食健康福祉部長は「個別の事案まで確認しているわけではない」と述べつつ、市町村に改善を求めていく考えも示しました。

尾村県議の質問(続き)

放射線防護施設の耐震化を

島根原発30キ圏内には19の放射線防護施設があり、全て新耐震基準を満たしています。

尾村県議は「志賀町では新耐震基準を満たした建物でも施設の継続的利用が困難となった。この教訓に立てば、追加的な耐震対策が必要であり、耐震基準が定まっていないうガス、上下水道、電気などの建物付属

設備の老朽化対策の総点検を」と求めました。

森本敬史防災部長は、地震の被害で設備が破損する可能性も考慮し「資機材整備への支援を新たに検討するとともに、各施設において損傷が生じた場合の対応手順を確認する防災訓練研修に取り組みたいとたくよう促していく」と応じました。

学費の値上げ止めたい

広島大学が授業料値上げの検討を発表しました。今でさえ高い学費のもとで学生たちは食費を削り、深夜バイ



大平よしのぶ 衆議院議員

アツく やさしく

トで健康や学ぶ時間が奪われており、子育て世代も重い負担に苦しめられ、シニア世代も老後の蓄えを学費の足しに、と孫支援をしな

がすごくかかっている。と聞くし大学も大変なのかなと思いつつ、複雑です」などと言います。

学長は会見で「人件費や光熱費が増大し国立大は何かやっています。人件費や光熱費というのは大学運営の基本的な経費そのもの。国が支えるのが当たり前です。一方でこの20年、

を恥ずかしいと思わないかと質すと、担当者は苦笑いしながら「大学教育の質向上のため」と授業料を引き上げるという選択肢はあり得る」と答弁。またしても驚き。光熱費増大のどこが「質向上」なのか。大学運営の大前提ではないかと、さすがに声を荒げずにはいら

島根原発2号機再稼働ストップへ ~能登半島地震(志賀町、輪島市)視察・報告③~

視察報告の連載3回目は、亀谷ゆう子衆院島根2区予定候補が「放射線防護施設」などをテーマに報告します。

●志賀町唯一の公立病院、町立富来病院(放射線防護施設)で起こったこと

1998年に開設された町立富来病院(竹村健一院長)は3階建ての町の基幹病院で、志賀原発の北約10kmにあります。一般病床60床、介護医療院34床の計94床で、常勤医5名(震災当時は4名)、当直医1名、職員は約100人。視察した日も病棟の天井から蛍光灯やケーブルがぶら下がる場所が残っていました。同病院は、原発事故が起きた場合に入院患者と介護施設入所者が一時的に屋内退避する放射線防護施設の役割も担っています。新耐震基準を満たしているにもかかわらず、今回の地震で防護区画の柱のコンクリートがはがれて鉄筋が露出。陽圧化装置は吹き出し口が脱落し、天井に60cm四方の穴が開き、空調も壊れました。さらに、天井の給湯・給水管が破損し、病院の1階・2階は水浸しに。全職員の3分の2にあたる約60人が被災しながらも病院に駆けつけ、72人の入院患者を3階に避難させました。竹村院長は「マンパワーが全く足りなかった。地震と津波だけでも大変だったのに、もし志賀原発で事故が起きていたら大変な事態になっていた」と語られました。



ケーブルがぶら下がったままの町立富来病院の2階病棟

●女性や子ども、高齢者が安心できる避難所を

避難所の富来防災センターでは、段ボールベッドなどがいくつも並んでいました。しかし、まわりから丸見えの状態で、プライバシーやジェンダーに十分配慮したとは言えないものでした。声を上げづらい女性や子ども、高齢者の声をくみ上げる体制づくりと避難所の改善が急務だと感じました。



避難所になっている富来防災センター(志賀町)

●志賀町役場からお聞きした現状と課題

志賀町役場では、環境安全課の方に現状と課題をお聞きしました。大きな課題として、災害時の「マンパワーが足りない」「倒壊家屋の解体が進まない」とのことでした。現在は5班体制(1班4~5人)で公費解体を行い、6月からは20班に、7月から40班となる見込みです。

課長は「北陸4県と全国からの支援で対応し、能登全体で600班体制にしたいが、業者が足りない。また、志賀町に宿泊場所がないため、解体班は1時間かけて金沢市から通っていることから時間がかかってしまう」と話されました。

【視察を終えて】 防災・減災対策に力を入れるとともに、危険な原発は絶対に動かしてはいけません。(亀谷優子)